

『友だちのがんばり』

愛知県みよし市立黒笹小学校 四年一組 男子 元田 晃太郎

ぼくは、二年生の時にとなりの席になった女の子との給食の時間が、とても思い出に残っています。その女の子は手が不自由で口がちょっと小さかったので、給食の時はよく食べるのがおそくなっていました。決められた時間までに食器を給食センターに返さなければならぬので、みんなからしょっちゅう

「おそいな。」

「はやく食べる。」

と言われていました。ぼくもとなりの席になる前、「一回言ってしまったことがあります。でも、となりの席になって、その時のことをすっごくうろかしていました。その子がノートに文字を書いているところを見た時、すっごくびっくりしたのよ、うろかしたのかたまたま、ぼくにむずかしい病気の名前を教えてくださいました。ぼくは、女の子の手が不自由だと初めて知りました。そして、給食の時に食べるのがおそいと言ってしまったことを思い出してすっごくはにかしい気持ちになりました。

だから、それからぼくは、いつも女の子と同じスピードで給食を食べるように心がけました。なぜなら、ぼくも食べるのがおそければその子だけがおこられることはないと思ったからです。でも、給食が大すきなぼくは、どうしても早く食べ終わってしまい、ぜんぜん助けることができませんでした。女の子はいつも残したりせずに、いっしょけんめい全部食べきっていたので、すごい子だなと思いました。

クラスで五人くらいが休んだ時は、みんなの給食がちょっとずついつもより多くなっていました。ぼくは、すごく大もりでも気にしないけど、女の子はとてもこまっているようにでした。ぼくはすっと、女の子が全部食べられるかなと考えていました。いっしょけんめい食べ続けているすがたを見ながら、

「ガンバレー！」

と心の中でおうえんしていました。結局、女の子はへらしたり、残したりせずに、ちゃんと全部食べ終わることができました。しかも時間内に食べきったのです。女の子は、はいぜん台に食器を運ぶ時、時間内に食べ終わることができたのがうれしかったのか、えがおをかくしきれない様子でした。ぼくも、がんばってすごいなと、自分のことのようにうれしく思いました。

今はちがうクラスですが、二年たった今でもあのかくしきれなかった女の子のえがおをぼくははっきりおぼえています。がんばっていっしょけんめいに給食を食べているすがたもすっかりおぼえています。ぼくは女の子から、がんばることの大切さを教えてもらいました。みんなから文句を言われても言い返したりしなかったし、弱音をはかないでいつもがんばっていて、やさしくて強い子だなと感動しました。